

# 近藤 さえ子の 小枝通信

一本の小枝がつなぐお母さんの声  
一本の小枝で結ぶ地域の世代  
一本の小枝が渡す地域と区政

No.33 2019年1月発行

2019年新しい年が始まりました。

今年元号が変わります。皆様の「平成の30年」はどのような年月でしたでしょうか。私自身にとっては激動の30年でした。結婚して子どもを産み育て、区議会議員になり、仕事と子育て・介護に追われる中、突然、犯罪被害者遺族になる出来事に遭遇しました。

自分の力だけではどうすることもできない困難に出遭ってしまった人を支え守る、行政はそのような場所と組織であって欲しいとの思いから、中野区にできた「犯罪被害者等相談支援窓口」は、全国的に有名になりました。その後、多くの被害者遺族と共に法律を変える運動に携わり、支援者活動も評価され、各地の警察や支援団体から招かれ講演活動を続けています。また、若い支援者の育成にも力を入れ、今、「行政はどんな支援ができるのか」を若者たちが学び始めています。

新しい年、これから始まる新しい時代、まじめに生きる人たちが幸せに暮らすことができるよう、これからも努力を重ねて参る所存です。  
本年が皆様にとり良い年になるよう願ってやみません。  
これからもご指導、ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いいたします。



## いま中野区は!

### 事業の見直しあるいは検証

区長が交代し半年が経ちました。酒井区長は、公約に挙げた区の事業の見直しを進めています。前区長の計画に賛同してきた議会の多数派の反対で、変更案等が示される度、議会は紛糾し、新しい案はなかなか承認されません。

#### ●平和の森公園再整備(第二工区)

300mトラック、100mコース、バーベキューサイト設置 → 検討を継続

#### ●サンプラザ 壊す方向は以前と同じ アリーナ規模は検証

#### ●哲学堂公園再整備

観光拠点、学習展示施設 → 再検討、国の名勝指定を目指す

#### ●田中野刑務所正門 壊す → 文化財的価値を考慮小学校移転地に残す

#### ●児童館 廃止する → 異年齢の交流場所を残す

特に平和の森公園の再整備修正案は、民意を受け区長が見直し案提示→議会で多数の賛同得られず→区民の声を聴く→議会賛同得られず→さらに多数区民の声を聴く・現状です。

このように区民が事業内容を検討する機会は確かに増えましたが、議案を決定するのは議会における多数決です。

### 議員定数削減議案は不採択

公明党が区議会議員定数を現在の定数42人から40人に減らす議案を提出しました。私は削減に賛成しましたが、公明党以外4議員の賛成のみで、反対多数で否決されました。

反対した議員や区民は「多くの民意が反映される」「議員削減前に報酬削減」等言いますが、報酬削減は特別職報酬審議会に諮問する等時間が掛ります。現時点で議会ができる改革から取り組むべきと私は考え賛成しましたが、残念な結果でした。

### 政務活動費の用途について

「広聴費」として新年会等に多額の支出をする議員がいることを問題として、区民団体から政務活動費の飲食を伴う会合への用途を禁止する陳情が提出され、議会運営委員会で継続審査となっています。

中野区議会議員には年180万円が支給され、用途は手引きで決まり、1円から領収書が必要です。未使用の政務活動費は返還されねばならず、私は昨年約49万円を区に返還しました。区民からは、海外視察も政務活動費支出対象となったことを疑問視する声も出ています。



<http://saekonikki.exblog.jp/>



日々の活動をお知らせしています。

### 10月28日 子ども会連絡会ハイキング

地域の複数の子ども会共同で、5校の小学校から35人の小学生と未就学児や保護者が参加、埼玉県の智光山公園(総面積53ha)にハイキングに行きました。

智光山公園の「子ども動物園」で小動物と触れ合い、公園内のアスレチックで遊び、秋の好天に恵まれ楽しい時を過ごしました。

駅から公園までバスで20分の距離を「まだ～?」「疲れた～!」と言いながら、皆が往復歩き切りました。私は育成者として参加しましたが、子どもたちが1人もねを上げることなく歩ききったことに、集団行動の力を感じました。

保護者として参加したお父さんは率先して点呼をとったり、いつの間にかスタッフの1人として働いていました。帰宅して万歩計を見ると19,000歩以上歩いていました。



### 11月18日 平成30年度 中野区犯罪被害者週間行事

世田谷一家殺人事件被害者遺族の入江杏氏の講演がありました。2000年、隣に住んでいた妹家族4人全員が何者かに殺され、事件は今も未解決です。入江氏は、想像を絶する悲しみと向き合いながら、上智大学非常勤講師やミシュカの森主宰を務められ、グリーフケア(\*)の専門家として活動されて来ました。

大変感動的な講演でした。特に「被害者遺族は沈没の内海から這い上がっていき、支援者、他の人たちは外海にいて、このふたつが出会うまでにはたくさんの時間がかかり、容易ではない」(宮地尚子氏著「環状島=トラウマの地政学」)この言葉は、私の心に大きく響きました。

また、入江氏は「中野区は被害者支援の先進区である」との認識を示され、被害者支援に取り組んできた私としては嬉しい限りでした。

(\*)グリーフケアとは グリーフ(Grief) 悲嘆・苦悩 ケア(Care) 世話・看護 家族等親しい人との死別を経験した人に寄り添い、深い悲しみや喪失感からの立ち直りを手助けするケア。

# 私の議会報告

近藤さえ子は第3回および4回定例会で以下の質問をしました。



## 平成30年第3回定例会 一般質問(9月13日)

### 区有施設の有効活用について



#### 1 区有施設の整備計画について

区は民間活用を推進、区有施設を民間に貸し出してきたが、裁判沙汰になった桃ヶ丘小学校跡地、環境リサイクルプラザ跡地の「温暖化対策推進オフィス」、どちらも効率悪く、区民の活動の場を奪い、区に対する信用も失ってきた。「区民にとって必要なのはどのような施設なのか」の観点を全く欠いていた結果であると思う。

また「緊急待機児童対策」として、2年間限定の保育施設6園に対しプレハブリース代として20億円以上投じたが、全ての保育園が定員に満たない。区の施設整備は計画性が無く強引な手法で、区民の不評をかってきた。

今後の区有施設整備計画づくりは、どのような手順で策定するのか。区民の意見を聞く際、財政的根拠を示したうえで議論が必要である。

#### 2 リサイクル展示室の活用について

リサイクル展示室は、新井薬師前駅に近く中野からも便利な立地のビルの利用法として、月に1人2点の古着配布等だけではもったいないと感じる。ごみ減量・リサイクル推進のために建物を有効活用できないか。

ごみ減量や資源循環型の社会構築には、区民が主体的に取り組む環境と、それをフォローしてリードする行政の支援が必要である。リサイクル展示室をごみ減量、リサイクル推進に寄与する公益活動の情報発信基地やコミュニティ空間として利用してはどうか。

#### 3 スポーツ・コミュニティプラザについて

平成24年、区民運営の「地域スポーツクラブ」をオープン、クラブマネージャーや講座・教室の企画および講師も区民が務め、地域に密着したスポーツクラブであったが、やっと軌道に乗った頃、「中部スポーツ・コミュニティプラザ」と名称変更、指定管理制度でTACグループに運営を委託した。続いて「南部スポーツ・コミュニティプラザ」、来春予定の「鷺宮スポーツ・コミュニティプラザ」も同社が運営、さらに、平和の森公園にほど近い沼袋小学校跡地にも4箇所目の開設を予定している。

民間運営と変わらないスポーツ施設を4箇所も、中野区が整備し、維持し続ける必要性も余裕もないと考える。

## 決算特別委員会総括質疑(9月25日)

### 1 ごみ問題について

#### 近藤さえ子

昨年度の不法投棄処理委託費は1,235,000円。外国人でもごみの出し方がわかるよう集積所に表示してはどうか。

#### 川本清掃事務所長

集積所の看板に粗大ごみの出し方も記載されている。申し込みがあれば4カ国語版の看板も提供している。

#### 近藤さえ子

区が斡旋する容器型の大きなコンポストは1万円前後と高価で庭のない家には置けない。年3器しか売れない実績をどう考えるか。

#### 千田環境部副参事(ごみゼロ推進担当)

ごみ減量に資する他の取り組みを検討する。

#### 近藤さえ子

リサイクル展示室に多くの古着を集めることが、区のリサイクル事業の成果なのか。

#### 千田環境部副参事(ごみゼロ推進担当)

リサイクル展示室については、より効果的な活用方法等検討したい。

### 2 地域包括ケアシステムについて

#### 近藤さえ子

介護予防事業に1,900万円の予算を組んでいるが、参加者が少ない事業を続けている。区民のニーズを把握して、事業の精査をして欲しい。

#### 滝瀬地域支えあい推進室副参事(地域包括ケア推進)

事業の見直し等も含め検討していきたい。



## 平成30年第4回定例会 一般質問(12月4日)

### 1 保育需要の拡大に対応するための組織について

区は待機児童0を目指すのが、保育需要に保育施設の整備が追い付かない一方で、2年間限定で整備した区立保育室7施設は定員割れしている。区民からは「待機児童や保育の質の問題について、区民や保育園の現状をきちんと把握してもらいたい」との声があがる。この喫緊を要する保育問題に対応できないことに関し、職員の不足という面はないか。

中野区では、約6000人の園児の業務を10人の職員で担当している。自治体により体制・業務内容等異なるが、杉並区や練馬区に比べかなり少ない。職員のオーバーワークにより、複雑化する親の就労形態の把握や必要な保育サービスの状況判断、また区民に対する丁寧な説明ができないことを危惧する。

区長の掲げた公約「子育て先進区」「待機児童ゼロ」「保育の質の向上」を目指すには、しっかりとした職員体制、土台が必要である。保育を必要とし、区に助けを求める区民に質の高い保育サービスを提供できるよう早急な体制強化を求める。

### 2 2000人体制の見直しについて

区は平成20年から民間活用と少数精鋭の職員体制の確立に取り組み、26年度に定数条例上の「職員2000人体制」を実現した。しかし「少数精鋭の職員体制」とは程遠い。2000人体制になって、肝心の区民サービスは向上したのか。

区長は、区民の声を聴き、区民サービス向上のために職員に力をつけたいと考えていると思うが、病気になりそうな状態で働いている職員も少なくないと感じる。オーバーワークの部署では、日々の仕事をこなすのが精いっぱい、「区民と真に向き合う」には職員に余裕もなく、区民は「サービスの低下を招いている」と考える。

今後ますます複雑化、多様化する区民のニーズに応えるため、職員の人材育成を強化し、本当の少数精鋭の体制を目指す時、2000人の定数に固執する必要はないと考える。

こえだ  
小枝ネット(ホームページ) <http://www.koeda-net.com/>

### 近藤 さえ子 プロフィール

近藤正二(中野区議11期)の次女 北原小・十一中・吉祥女子高・和光大学卒 中野区議会議員(4期) 趣味:テニス

### 近藤 さえ子の小枝通信

発行:中野市民の会 編集:近藤さえ子事務所  
TEL & FAX 03-3330-9584  
E-mail saekokondo@mbh.nifty.com